壁掛形据付説明書

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。電気工事の方法は、裏面をご覧ください。
室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

電気ヒータは取り付けられません。
リモコンは別売です。

安全上のご注意

- ●据え付け工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ●ここに示した注意事項は、⚠警告 、 ⚠注意 に区分していますが、誤った据え付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に ⚠警告 の欄にまとめて記載しています。しかし、 ⚠注意 の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ●据え付け工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この据付説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管頂くように依頼してください。

⚠ 警告

- ●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼してください。お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- ●据付工事は、冷媒R410A用に製造された専用ツール・配管部材を使用し、この据付説明書に従って確実に行ってください。使用しているHFC系新冷媒（R410A）は、従来の冷媒（R22）に比べ圧力が約1.6倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災等の原因になります。
- ●据付工事は、必ず付属品及び指定の部品を使用してください。当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電等の原因になります。
- ●据付け場所は、重量に十分耐える所に確実に行ってください。強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、事故の原因になります。
- ●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行ってください。据付工事に不備があると、転倒等による事故の原因になります。
- ●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策を行ってください。
  冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m^3）を超える恐れがある場合は、窒息死防止のため隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置の取り付けが必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
  万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- ●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行ってください。冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
- ●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。
  冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなど火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- ●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用し、定格の電圧・ブレーカーを使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。
- ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- ●配線は、浮き上がらないように整形し、リッド、サービスパネルを確実に取り付けてください。取り付けが不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
- ●室内外のコントロールカバー（リッド、サービスパネル）を確実に取り付けてください。取り付けに不備があると、埃・水等により、感電・火災等の原因になります。
- ●据付けや移設の場合は、冷媒サイクル内に指定冷媒以外の空気等を混入させないでください。空気等が混入すると、冷媒サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガの原因になります。
- ●ドレン配管は硫黄系ガス等、有害ガスの発生する排水溝には直接入れないでください。
  室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。
- ●別売品は、必ず当社指定の部品を使用してください。取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- ●改造は絶対にしないでください。修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。改造したり修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- ●お客様自身で移動・再据付けはしないでください。据付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。お買い上げの販売店または専門業者にご依頼ください。

⚠ 注意

- ●据付工事は、据付説明書に従って確実に行ってください。据付けに不備があると、異常振動、騒音増大の原因になります。
- ●次の場所への据付けは避けてください。
  - ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
  - ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ等、機器に影響する物質の発生する所
  - ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場等）
  - ・高周波を発生する機械を使用する所
  - ・海浜地区等塩分の多い所
  - ・外気が流入しやすい所
  - ・車両・船舶等移動するものへの設置
  - ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
  - ・積雪の多い所

  性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になります。
- ●可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れの恐れがある場所へは据付けないでください。。万一ガスがユニットの周囲に溜まると、発火・爆発の原因になります。
- ●腐食性ガス（亜硫酸ガス等）、可燃性ガス（シンナー、ガソリン等）の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は避けてください。熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になります。また可燃性ガスは発火の原因になります。
- ●濡れて困るものの上にユニットを据付けないでください。湿度が80%以上の時やドレン排水が詰まった場合に室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。
- ●精密機器・食品・動植物・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。保存物の品質低下等の原因になります。
- ●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでの据付け、使用は避けてください。インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になります。
- ●製品の運搬は充分注意して行ってください。20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- ●ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないように断熱処理を行ってください。配管工事に不備があると、水漏れし、天井・床その他家財等を濡らす原因になります。
- ●ドレン配管は下り勾配（1/50~1/100）とし、途中山越えやトラップを作らないようにしてください。ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。試運転時に排水が確実に行われていることを確認してください。点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。
- ●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行ってください。不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。
- ●梱包材の処理は確実に行ってください。梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。
- ●据付台等が傷んだ状態で放置しないでください。傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になります。
- ●エアコンを水洗いしないでください。感電の原因になります。
- ●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止してください。
  溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）をあたえ水漏れ等の原因になります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
- ●電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災等の原因になります。
- ●アース工事を行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
- ●電源配線は、電流容量に合った規格品の電線を使用してください。漏電や発熱・火災等の原因になります。
- ●電源配線は張力がかからないように配線工事を行ってください。断線したり、発熱・火災等の原因になります。
- ●正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器を使用してください。大きな容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になります。
- ●元電源を切った後に電気工事を行ってください。感電、故障や動作不良の原因になります。
- ●パネルやガードを外した状態で運転しないでください。機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- ●フィルターを外したまま運転しないでください。内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因になります。
- ●濡れた手でスイッチを操作しないでください。感電の原因になります。
- ●運転中の冷媒配管を素手で触れないでください。運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになる恐れがあります。
- ●運転停止後、すぐに電源を切らないでください。必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。
- ●直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になります。

＜お願い事項＞

○取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。

○長期間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご説明ください。

PHA012D034

本ユニットはワイヤードリモコン、またはワイヤレスリモコンと接続することが可能です。
ワイヤードリモコンを接続しない場合は、ワイヤレスリモコンで動作します。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

①据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

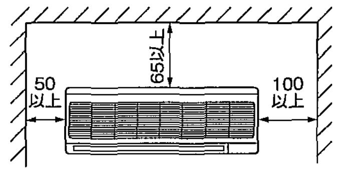
確認してください
機種・電源仕様
付属品
配管・配線・小物部品

〈付属品〉
※本体の上にテープで貼り付けられています。

1	据付板		1個	室内ユニット裏面に付属
2	タッピンネジ		10個	据付板用　径4mm×長さ25mm
3	インシュレーション		1個	断熱用　50mm×160mm

②室内ユニットの据付場所の選定

室内ユニット据付スペース



お願い
●点検、メンテナンス作業のためスペースを確保してください。

1．据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ●冷風または温風が十分行きわたる所。
- ●室外への配管、配線のしやすい所。
- ●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- ●据付部の壁が強固である所。
- ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
- ●油の飛沫や蒸気の多い所は避けてください。
- ●直射日光が当たらない所。
- ●高周波を発生する機械がある所は、避けてください。
- ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80％以下の所。
- ●進入外気の影響のない所。
- ●ユニットの真下に食品・食器を置かないこと。
- ●調理器具が発する熱の影響を受けない所。
- ●フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
- ●蛍光灯・白熱灯よりできるだけ離れた所。（ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作が出来なくなることがあります。）

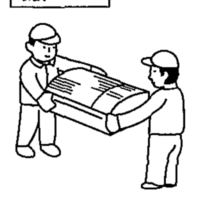
2．据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
強度不足の場合は、ユニット落下により、ケガの原因になります。

3．ワイヤレス機種を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するためユニット間を6m以上離してください。

（本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下するおそれがあります。）

③室内ユニットの搬入、据付

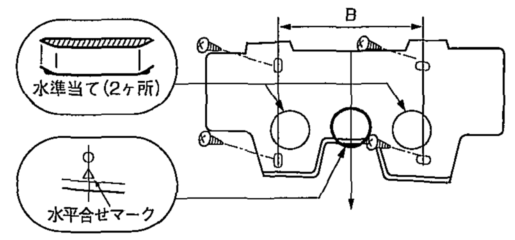
搬　入



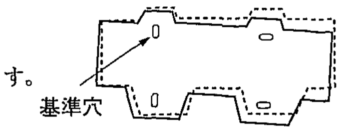
お願い
- ●搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- ●やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないように注意してください。
  注）吹出ルーバ部分を持たないでください。
- ●解梱後ユニットを置く場合は、必ずユニットの前面側を上にしておいてください。

据付板の取付け　**お願い**　●このユニットを直接壁面等に据付けることはできません。
必ず付属の据付板を使って据付けてください。

○壁内の構造物（間柱など）をさがして水平を確認してから強固に取付けてください。



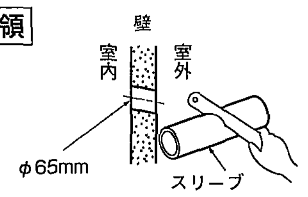
VP, VXPシリーズ	P40～P56	P63～P80
XPシリーズ	P63	
B　寸　法	450	450, 610

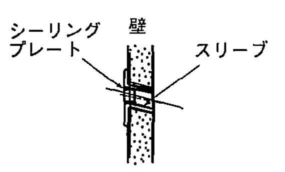


○据付板の水平調節は4本のねじを仮締めした状態で行います。
○基準穴を中心に回転し水平になるよう調節します。

⚠警告
・**据え付けは、重量に十分に耐える所に確実に行ってください。強度不足や取り付けが不完全な場合にはユニット落下によりケガの原因になります。**

壁の穴孔け要領



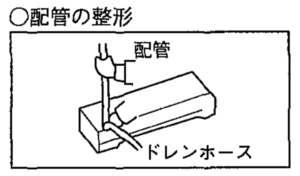


○室内から室外にむかって下り勾配（5°）をつけてください。

配管・ドレンホースの整形

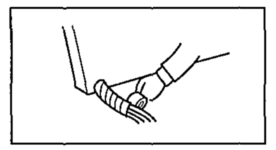
(後取り出しの場合)

○配管の整形



●配管の根元を押さえ向きを変えてから延ばし整形する。

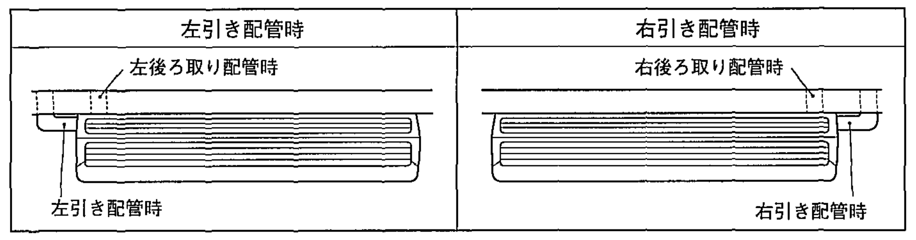
○テープ巻き



●壁穴を通す長さ分だけテープ巻きしてください。
●渡り配線は必ず配管とテーピングしてください。

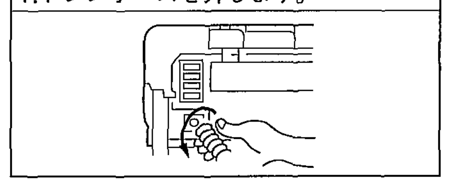
配管の整形後テープ巻きを行う前に接続電線が端子台にしっかり固定されていることを確認してください。

(左取り出し・後取り出し時の注意事項)
〈上から見たところ〉



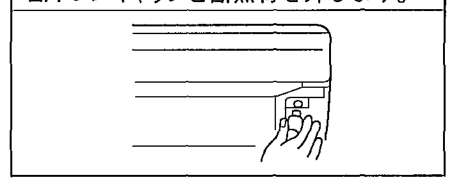
〈ドレンホース付替え作業手順〉

1.ドレンホースを外します。



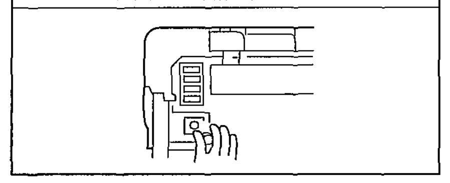
●ドレンホースを回転させながら外してください。

2.ドレンキャップと断熱材を外します。



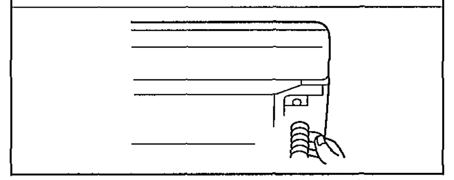
●手または、ペンチ等で外してください。

3.ドレンキャップと断熱材を差し込みます。



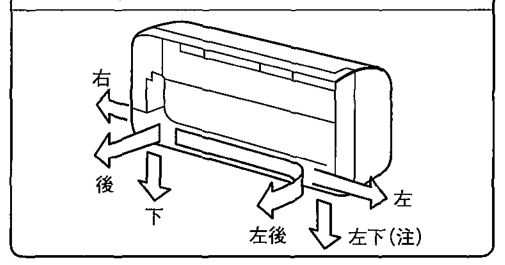
●2.で外したドレンキャップを六角レンチ等をもちいて確実に差し込んでください。
注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

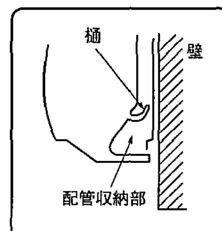
4.ドレンホースを接続します。



●ドレンホースを回転させながら確実に差し込んでください。
注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

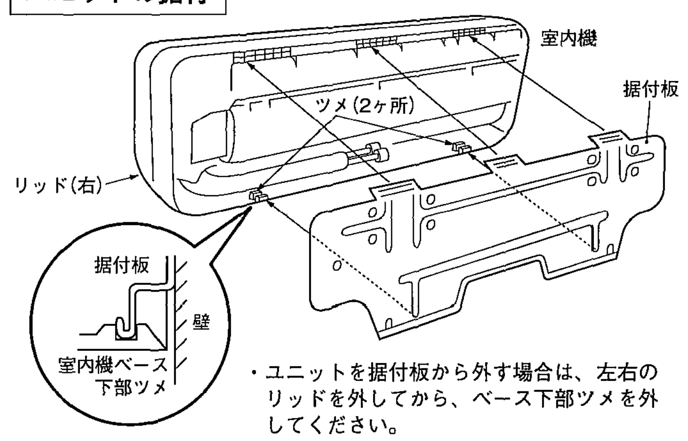
配管は、後、左、左後、右、下から取り出せます。





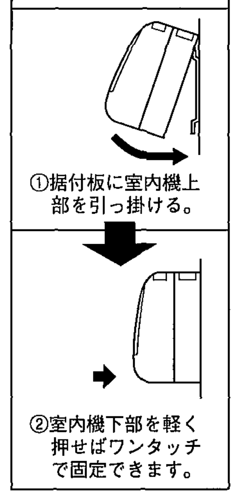
このエアコンは背面についた露をドレンパンに集めて排水する構造になっていますので、樋より上方に電源コード等を収納しないでください。

ユニットの据付



・ユニットを据付板から外す場合は、左右のリッドを外してから、ベース下部ツメを外してください。

据付作業手順



①据付板に室内機上部を引っ掛ける。
②室内機下部を軽く押せばワンタッチで固定できます。

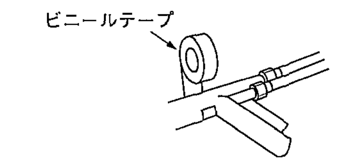
④冷媒配管

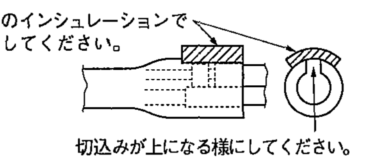
冷媒配管時の注意事項

- ●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
  （材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS H3300）
- ●配管の曲げはできるだけ大きな半径で行ってください。曲げ直しを何回も行わないでください。
- ●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
- ●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。
- ●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっています。）
  フレアナットは以下の手順で外してください。
  - ①「シュー」と音がするまでナットを緩める。
  - ②ガスが完全に抜けるまで（音がしなくなるまで）放置する。
  - ③ガスが完全に抜けたことを確認してナットを取外す。
- ●フレア接続は以下のように行ってください。
  ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
  （このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
- ●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。

フレアナット締付トルク
φ 6.35 : 14～ 18(N·m), φ12.7 : 49～ 61(N·m)
φ 9.52 : 34～ 42(N·m), φ15.88 : 68～ 82(N·m)

●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、室内ユニットの断熱材で覆い、付属のインシュレーションで切込み部を断熱してからテーピングしてください。





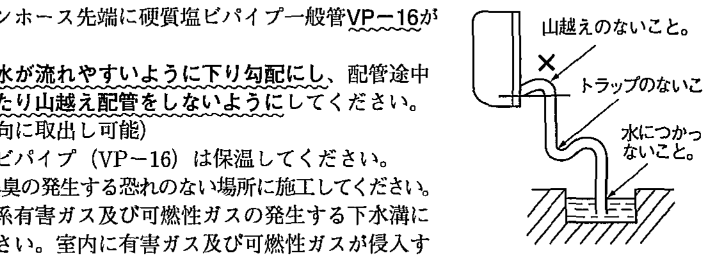
付属のインシュレーションで断熱してください。
切込みが上になる様にしてください。

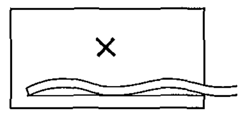
ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。

●冷媒は室外ユニットに充填されています。
（室内及び接続配管分の追加量については室外の説明書をご覧ください。）

⑤ドレン配管

お願い
- ●ドレン配管は、ドレンホース先端に硬質塩ビパイプ一般管VP－16が接続可能です。
- ●ドレン配管はドレン水が流れやすいように下り勾配にし、配管途中にトラップをつくったり山越え配管をしないようにしてください。
  （左、右、後、下方向に取出し可能）
  室内に施工の硬質塩ビパイプ（VP－16）は保温してください。
- ●ドレン配管の出口は異臭の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ●ドレン配管はイオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。
- ●熱交換器の下のドレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認してください。（前面パネルの取付け取外しについては「**配線の取り付け**」を参照ください。）





⚠ 注意
確実に工事し、排水の確認をしてください。水漏れの原因になる恐れがあります。

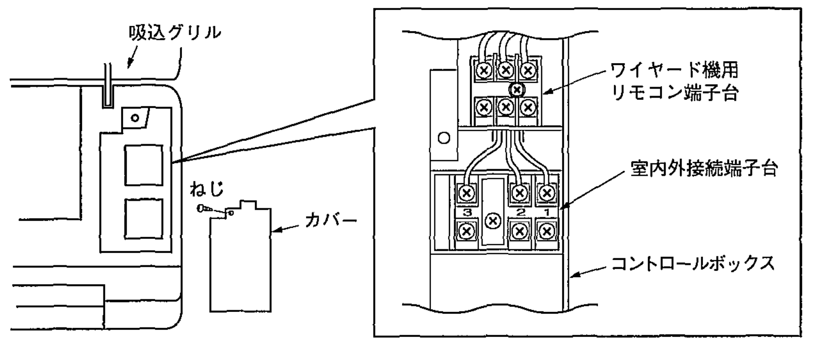
⑥配線の取り付け

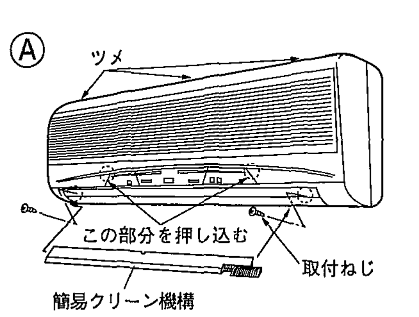
ⒶVXPシリーズP40～P56、XPシリーズP63の場合
ⒷVXPシリーズP71～P80、VPシリーズP63の場合

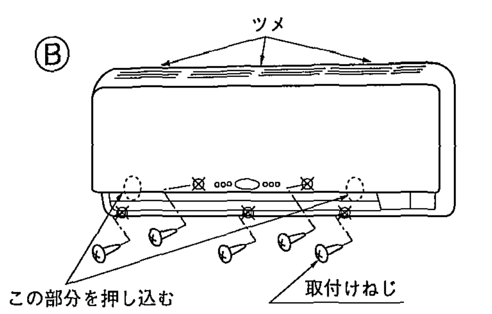
①吸込グリルを開けます。(吸込グリル下部両端を引き、ラッチを外してから手応えのある所まで引き上げてください。吸込グリルは60°位開いた所で止まります。)
②カバーのねじを外して、カバーを外してください。
③ワイヤード機の場合、コントロールボックスに取り付けられている2つの端子台の内、上方に付いている端子台に、リモコンコードを取り付けます。
④コントロールボックス下方に付いている端子台に、室内外接続線を取り付けます。
（室内外接続線は配線クランプにて固定してください。）
⑤カバーを取り付け、ねじを締めます。
⑥吸込グリルを閉めます。
（注意）・配線を端子台に取り付けるときは、端子番号を確認してから取り付けてください。

●パネルの取り外し順序
①簡易クリーン機構を取り外します。(Ⓐのみ)
②取り付けねじを外してください。(Ⓐ2ヶ所、Ⓑ5ヶ所)
③前面パネル下部を手前に浮かし、上部を押し上げる様にして外してください。
（上部３ヶ所のツメを外します。）

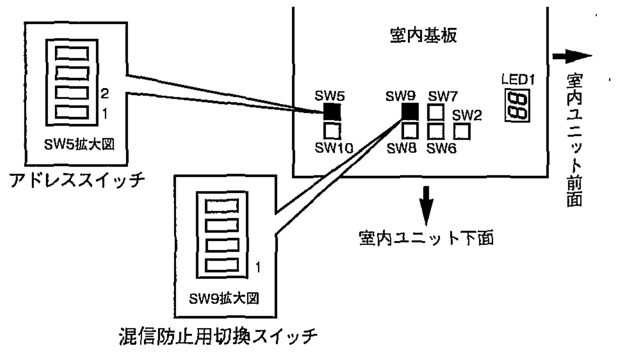
●パネルの取り付け順序
①エアフィルタは必ず取り外してください。
②前面パネルを本体に被せます。
③図の◌部を正面から押します。
④取り付けねじを締めます。
⑤エアフィルタをセットしてください。
⑥簡易クリーン機構を取り付けてください。(Ⓐのみ)







- ●アドレススイッチ位置（ワイヤード機のみ）：プルーラル機の場合は室内基板をコントロールボックスから取り出して設定を変更してください。
- ●混信防止用切換スイッチ位置（ワイヤレス機のみ）：室内基板をコントロールボックスから取り出して設定を変更してください。
  （注意）・室内基板をコントロールボックスから取り出すためには、前面パネルを取り外す必要があります。
  ・前面パネルの取り付け、取り外しには、上図を参照してください。



電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い 室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

⚠ 警 告

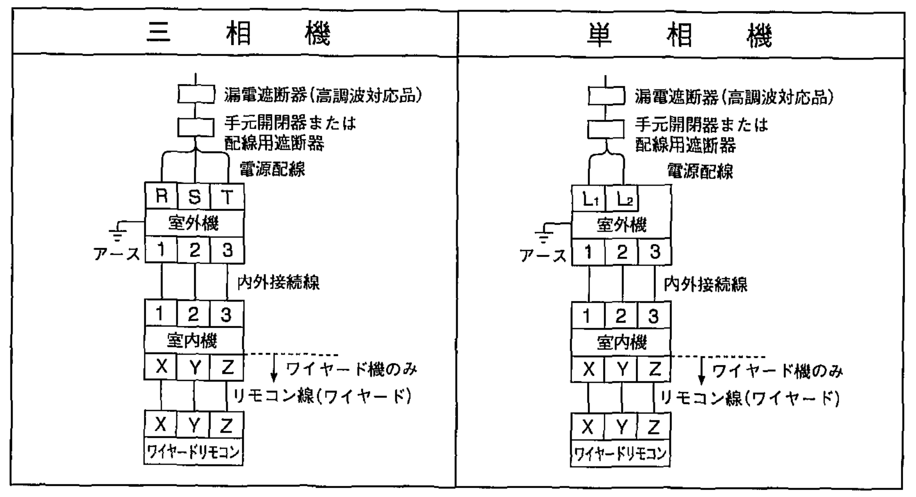
- ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- ●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注 意

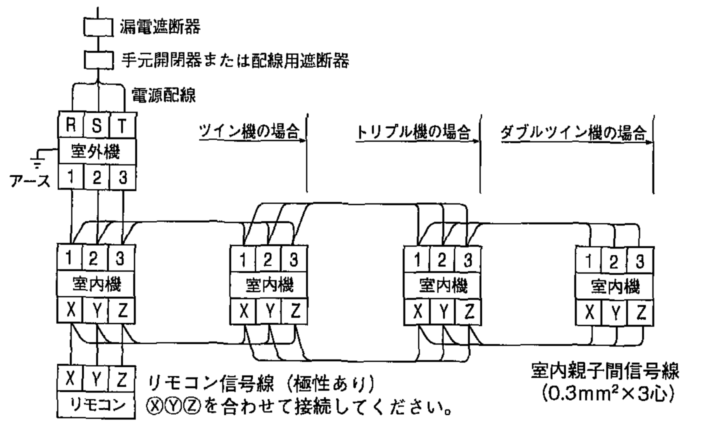
- ●アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- ●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- ●正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

①本機はヒータレス専用（含む冷専）です。ヒータは取り付けられませんのでご注意ください。
②電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。
※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
③室内外接続線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
④電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。
漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器(三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品)を選定してください。
⑤漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。
⑥ワイヤレス機はプルーラル接続等の複数台接続はできません。



ツイン・トリプル機の結線(ワイヤードリモコンのみ)



①室内親・子機間は端子台①②③及びⓍⓎⓏの同一番号間を接続してください。
②室内基板上のロータリスイッチSW2により、同一冷媒系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。
③室内子機は、室内基板上のアドレススイッチSW5-1,SW5-2により、子a～子cに設定してください。

④電源投入後、リモコンの「エアコンNo／点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定		室 内 機			
		親	子a	子b	子c
室内基板アドレススイッチ	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

※以下、ワイヤードリモコン関係はⒷ～Ⓖ、
ワイヤレスリモコン関係はⒽ～Ⓘを参照ください。

1．ワイヤードリモコンの場合
- ●表示灯は点灯しません。
- ●バックアップスイッチは動作しません。
- ●ワイヤレスリモコンは使用できません。

2．ワイヤレスリモコンの場合
- ●ワイヤードリモコンは使用できません。
- ●リモコンの判定が終了するまで、ワイヤレスリモコンは使用できません。

（注意）
- ・電源投入時にワイヤード／ワイヤレスリモコンの判断を行います。
- ・電源投入後にワイヤードリモコンを取り外しても、ワイヤレスリモコンは使用できません。
- ・ワイヤレスリモコンとワイヤードリモコンは同時に使用できません。

Ⓑ ワイヤードリモコン

リモコンは別売です。

リモコンの据付

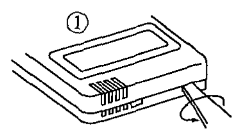
お願い 次の位置は避けてください。
1）直射日光の当たる場所
2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所
4）取付面に凸凹がある所

注意 リモコンの上ケースを取り外した場合は、リモコンを据付けるまで、基板上にゴミ或いは水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包用袋内に入れて保護してください。

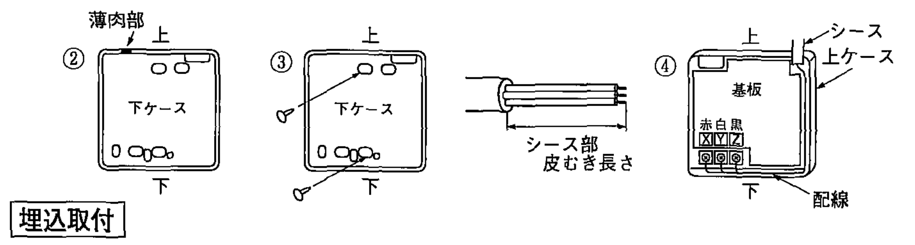
取付要領

露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
③リモコン下ケースを付属の木ねじ２本で壁に取り付けます。
④リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違える　と運転できません。
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線
リモコンコードは、0.3mm²（推奨）～最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm　白：205mm　赤：215mm
⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

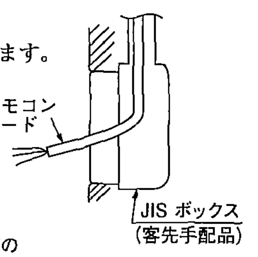


Ⓔ **機能の設定**の項をご覧ください。

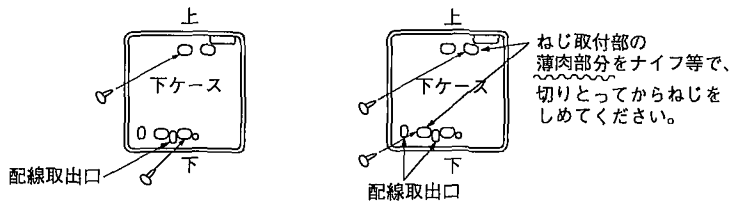


埋込取付

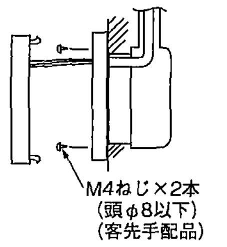
①JISボックスとリモコンコード
（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。
〔使用可能JISボックス〕
●JIS　C　8336　１個用スイッチボックス
２個用スイッチボックス



1個用スイッチボックスの場合　　2個用スイッチボックスの場合

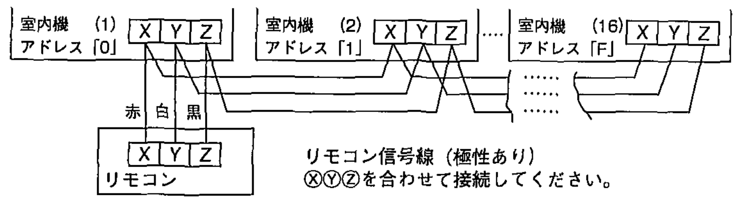

上
下ケース
下
配線取出口
ねじ取付部の薄肉部分をナイフ等で、切りとってからねじをしめてください。

②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM４ねじ２本（頭φ８以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
Ⓔ**機能の設定**の項をご覧ください。



Ⓒ 1リモコンによる複数台室内機制御(ワイヤードリモコン)

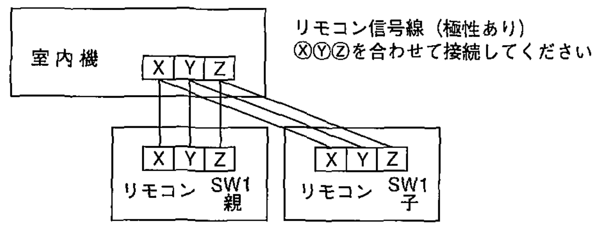
室内ユニット最大16台まで接続可能です。
①各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。
②室内基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。



③電源投入後、リモコンの[エアコンNo]を押すと室内機アドレスが表示されますので、[▲][▼]ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

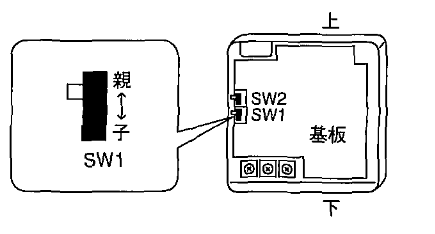
Ⓓ 複数リモコン使用時の親子設定(ワイヤードリモコン)

室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。
①子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。



②子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。工場出荷時は親設定です。
（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

スイッチ	設定	機能の内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン



Ⓔ 機能の設定 (ワイヤードリモコン)

●本機の各機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な設定である、下表「○」印の項目に、自動的に設定されます。従って、新たに設定をする必要はありません。
但し、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定をしてください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

● ▨の項目は、本機には機能がありませんので、設定しないでください。

(1) リモコン機能

機能番号Ⓐ	機能内容 Ⓑ	設定内容 Ⓒ	初期設定
01	グリル昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	○
		自動運転無効	
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	○
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	○
		風向調整禁止	
08	ﾀｲﾏｰ	ﾀｲﾏｰ有効	○
		ﾀｲﾏｰ禁止	
09	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ設定	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ無効	○
		ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気連動	
		換気非連動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ﾌｧﾝ速調	ﾌｧﾝ3速	○
		ﾌｧﾝ2速	
		ﾌｧﾝ1速	
14	冷専／ﾋｰﾎﾟﾝ	ﾋｰﾎﾟﾝ	※
		冷専	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	ｴﾗｰ表示設定	ｴﾗｰ表示有り	○
		ｴﾗｰ表示無し	
17	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	

(2) 室内機能

機能番号Ⓐ	機能内容 Ⓑ	設定内容 Ⓒ	初期設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	
03	ﾌｨﾙﾀｰｻｲﾝ設定	表示しない	
		180時間後	○
		600時間後	
		1000時間後	
		1000時間→停止	
04	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	
05	外部入力切換	ﾚﾍﾞﾙ入力	○
		ﾊﾟﾙｽ入力	
06	運転許可／禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正＋3℃	
08	暖房ﾌｧﾝ制御	弱風	○
		停止→弱風	
09	凍結防止温度	2.5℃	
		1℃	○
10	凍結防止制御	ﾌｧﾝ制御有効	○
		ﾌｧﾝ制御無効	
11	電気集塵機	ﾌｧﾝ制御無効	○
		ﾌｧﾝ制御有効	
12	加湿器制御	ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ非連動	○
		ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ連動	

注1：「※」印の初期設定は、接続される室外機の機種（ヒーポン機／冷専機）により、自動判別されます。
注2：(1)リモコン機能 の⑰ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能 の④ルーバ制御設定も変更してください。

Ⓕ 冷房試運転操作 (ワイヤードリモコン)

リモコンを次の手順で操作してください。
1．冷房試運転の開始
①[運転／停止]ボタンを押して、運転します。
②[運転切換]ボタンにより、「冷房」を選択します。
③[試運転]ボタンを３秒以上押します。
「項目⬍で選択」→「[セット]で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
④「冷房試運転▼」の表示で、[セット]ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
表示は、「冷房試運転」となります。
2．冷房試運転の解除
[運転／停止]ボタン又は、温度設定[∨][∧]ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。
①[点検]ボタンを押します。
「項目　で選択」→「[セット]で決定」→「運転データ表示▼」と、表示が切り換わります。
②「運転データ表示▼」の表示で、[セット]ボタンを押します。
③表示が「室内00▲」（点滅）となります。
[▲][▼]ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。
（室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。）
④[セット]により確定します。
（室内機番号が点滅から点灯に変わります。）
「データ読込中」（データを読込む間点滅表示）
↓
「運転データ⬍」と表示され、01番のデータが表示されます。
⑤[▲][▼]ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。
表示される項目は右記の通りです。
※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
⑥室内機を変更する場合は、[エアコンNo.]ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
⑦[運転／停止]ボタンを押すと、終了します。

番号	ﾃﾞｰﾀ項目
01	運転ﾓｰﾄﾞ
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度1
05	内熱交温度2
07	室内ﾌｧﾝ速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度1
23	外熱交温度2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出管温度
28	ﾄﾞｰﾑ下温度
29	CT電流
31	室外ﾌｧﾝ速度
32	静音ﾓｰﾄﾞ有効/無効
33	63H2 ON/OFF
34	63H1 ON/OFF
35	ﾃﾞﾌﾛｽﾄ ON/OFF
36	ｺﾝﾌﾟ運転時間
37	膨張弁開度1
38	膨張弁開度2

設定の途中で、[リセット]ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

Ⓖ 制御の切換 (ワイヤードリモコン)

（注）□囲みは、工場出荷時の設定

J-1	短絡	遠方運転入力(CnT)をレベル入力	J-3	短絡	通常運転	SW9-3	OFF	――――
	開放	遠方運転入力(CnT)をパルス入力		開放	遠方運転入力(CnT)により運転制御		ON	応急運転(基板上のコネクタCnBも同時に抜く)
J-2	短絡	暖房サーモOFF時弱風	J-4	短絡	――――			
	開放	暖房サーモOFF後5分間停止し弱風		開放	暖房室温検知補正＋3℃			

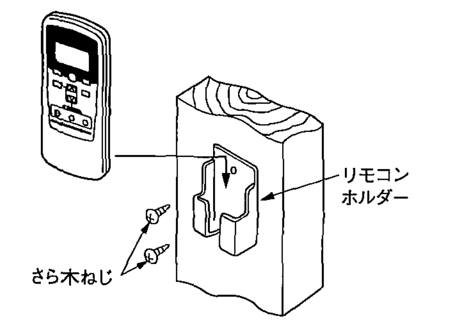
Ⓗ ワイヤレスリモコン

リモコンは別売です。

ワイヤレスリモコン(リモコンホルダー)の据付

お願い　次の位置は避けてください
1）直射日光の当たる場所
2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所
4）取付面に凸凹がある所

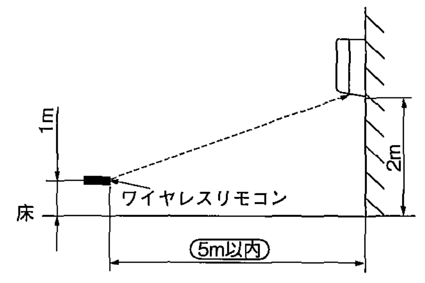
ホルダー取り付け時の注意
- ・垂直になる様、調整してください。
- ・ねじ頭が出ない様にしてください。
- ・土壁等へは取り付けないでください。

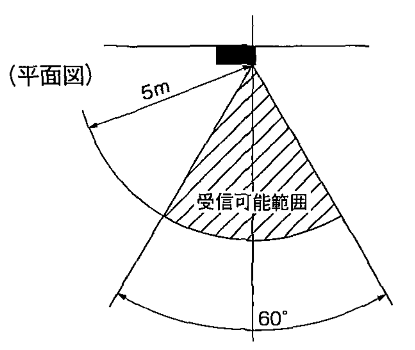


ワイヤレスリモコンの操作距離

PHA012D034

ワイヤレスリモコンの操作距離



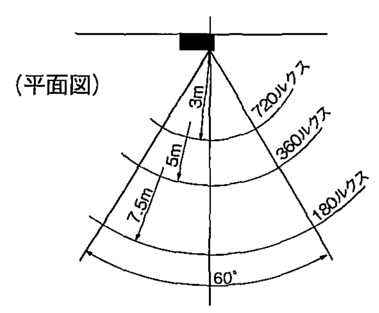


【条件】　吸込グリル面照度　800ルクス
目安：一般事務所でパッケージ周辺１ｍ以内の天井面照明がない設置例
（この場合、机上照度約1000ルクス）

ポイント：（左記条件）
1.受信角度　60°
2.受信距離　5ｍ

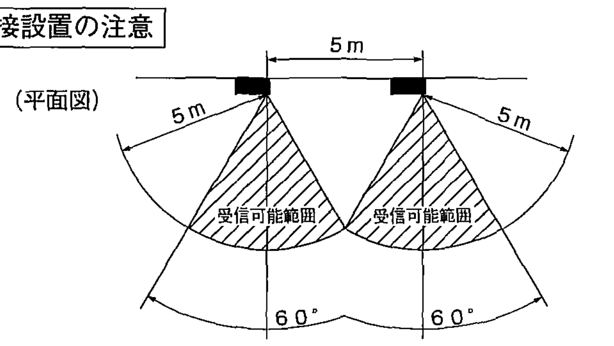
○リモコンスイッチを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
○操作距離は上図の通りですが条件により異なり（増減）ます。
○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合は、操作距離が短くなったり、受信しなくなる場合があります。

受信部照度と受信距離の関係



【照明と受信距離の関係】
目安：照明が半減すれば、受信距離は1.5倍となる。

複数台近接設置の注意



【条件】　吸込グリル面照度　800ルクス
目安：一般事務所でパッケージ周辺１ｍ以内の天井面照明がない設置例
（この場合、机上照度約1000ルクス）

ポイント：（左記条件）
1.受信角度　60°
2.受信距離　5ｍ

【複数台近接設置】
右記条件にて同一リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は5ｍです。
（受信部照度、部屋壁面の反射状態により変化する。）

➡ 混信による誤動作を防ぐ方法
（送受信モード変更）
(1) リモコン設定変更
(2) 室内コントロールプリント基板変更

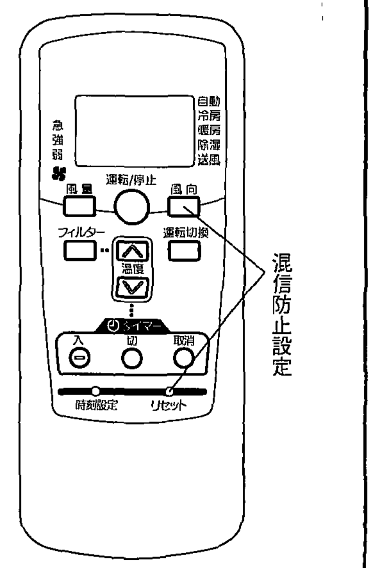
混信による誤動作を防ぐ方法

(1)(2)両方を実施

(1) ワイヤレスリモコンの設定変更
[風向] ボタンを押しながらリセットボタンを押すか
[風向] ボタンを押しながら電池投入をすると設定が混信防止設定へ切り換わります。

※一度電池を取り外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります、電池を取り外した時は、再度、上記操作を行ってください。

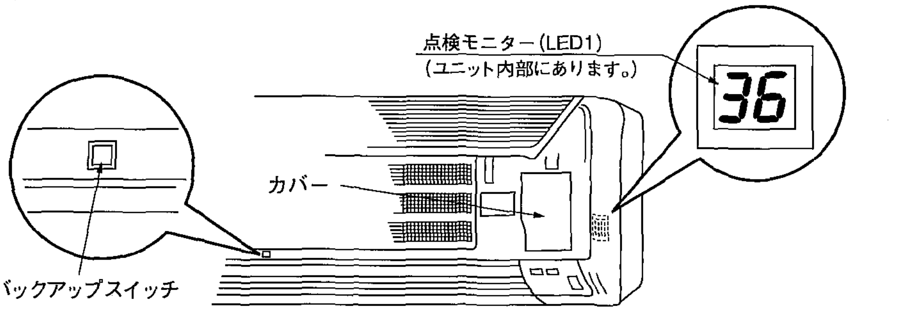
上記操作方法を必ずお客様に説明してください。
（操作方法は取扱説明書にも記載してあります。）



(2) 室内基板変更
室内基板上のSW9-1を、ONにしてください。
スイッチの位置は[配線の取り付け]の混信防止用切換スイッチ位置を参照してください。

Ⓘ 冷房試運転操作 (ワイヤレスリモコン)

①吸込グリルを開けます。
②ユニットの中央付近に下図に示す様な、バックアップスイッチ及び、点検モニターがあります。
（但し、点検モニターは、ユニット内部にあるため、カバーを開けてください。コントロールボックスの小窓から右方奥に確認できます。）
③バックアップスイッチを押しながら、ワイヤレスリモコンにて冷房運転を送信してください。冷房試運転を開始します。
④停止させるには、もう一度バックアップスイッチを押すか、ワイヤレスリモコンにて、停止ボタンを押してください。



- ●電源投入後30秒以上たってからリモコン操作してください。
- ●試運転時、正常に動作しない場合は、室内・外ユニットに貼付けの点検表示を参照し、点検してください。